

|     |                          |       |       |
|-----|--------------------------|-------|-------|
| 科目名 | 企業実習 II<br>Internship II | 科目コード | 41610 |
|-----|--------------------------|-------|-------|

|          |                               |
|----------|-------------------------------|
| 学科名・学年   | 物質工学科・4年（プログラム1年）             |
| 担当教員     | 物質工学科 学科長                     |
| 区分・単位数   | 選択・2単位                        |
| 開講時期・時間数 | 60時間【内訳：講義0, 演習0, 実験0, その他60】 |
| 教科書      | 使用しない.                        |
| 補助教材     | 使用しない.                        |
| 参考書      |                               |

#### 【A. 科目の概要と関連性】

実際の企業及び工場における現場の仕事を体験することにより、日ごろの学習内容を認識するとともに、社会人として要求される事柄を学ぶ。

○関連する科目：企業実習Ⅰ（同時期履修）、創造実験（4学年後期履修）、卒業研究（5学年履修）、学外実習（専攻科1学年前期履修）

#### 【B. 「科目の到達目標」と「学習・教育到達目標」との対応】

この科目は長岡高専の教育目標の(F)と主体的に関わる。

この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下の表に示す。

| 科目の到達目標   | 評価の重み | 学習・教育到達目標との関連 |
|---|-------|---------------|
| ① 学門的、技術的知識に加え、生産現場における基礎研究、製品開発、生産管理の方法などを理解し、社会に対する協調性や奉仕精神を養う。 | 80%   | (f1)          |
| ② 企業実習の経験を発表・討論できる。   | 20%   | (f2)          |

#### 【C. 履修上の注意】

実習内容は企業により異なる。有意義な実習とするためには、実習先の事前調査、学習が必要である。また、現場経験が主目的であり、作業に対する積極的な参加姿勢が必要である。

#### 【D. 評価方法】

次に示す項目・割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。60点以上を合格とする。

- 定期試験（0%）
- 企業実習責任者から提出される実習評価レポート（80%）
- その他（20%）【報告会における発表】

## 【E. 授業計画・内容】

責任者の学科長と実施科目指導教員（クラス担任）と相談の上、実習希望生の実習先を決定する。

### ○自習期間

夏季休業中、1週間以上2週間以内

### ○経費

実施経費は実習者負担

### ○保険

傷害保険に加入する

### ○事前指導

実習生は実習科目指導教員より、予め事前指導を受ける。

### ○実習先での注意

実習生は企業の実習責任者の指示に必ず従うこと

（詳細は、テキスト「企業実習の手引き」を参照すること）

### ○発表会

実習生は実習報告書を作成した上、発表会で実習経過と内容を発表する。